



古河電工産業電線は古河電工子会社の電線メーカー。徳田繁社長は親会社の産業電線・機器事業部

門長を務めつつ4月に

古河電工産業電線 徳田 繁氏

豊富な製品群で社会課題解決

「と抱負を語る。設住宅関連など製品を格が比較的安価な建設の研究開発や機能樹脂の必要とする顧客に届けられるよう尽力し「多止に有効。一方需要制事業、グループ全体のくの助けを得て乗り切約要因にもなる電気工品質管理推進などの業れた」と振り返る。非事の人手不足では軽量務に携わった。印象深常時の懸命な取り組みで施工しやすい建設用いエピソードは屋根には顧客との絆を深めたアルミ電線や外被・導用いる樹脂発泡シートという。

需要環境は再生可能省略して工事の手間を抑えた可とう性難燃ポリエチレンケーブル

略歴

徳田 繁氏（とくだ・しげる）1990年古河電工入社。フォーム製品部長、品質管理推進室長などを歴任。2022年産業電線・機器事業部門長に就任し、24年4月から古河電工産業電線社長を兼務。

就任した。同社の強みは「産業用電線のスペシャリストとして社会インフラを幅広く深く支える豊富な製品群を有する」と認識。その上で「今後も顧客ニーズに高い水準で応え社会課題解決に貢献

造部長としての仕事。エネルギー導入拡大や半導体大規模工場の建設などがプラスチック材料。一方電気工事現場での人手不足などを懸念材料と捉える。再エネ関連市場では太陽光発電でシェア拡大を狙う。問題となる中、素材価

（古瀬 唯）

新社長

